

2008年1月1日発行

発行所/〒120-0003 東京都足立区東和3丁目18番4号

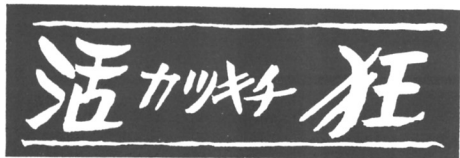
マツダ映画ビル内 無声映画鑑賞会

編集兼発行人 松田 豊 氏 ©

事務局 電話・03 (3605) 9981 (代)

FAX・03 (3605) 9982

無声映画鑑賞会 郵便振替 No. 00140-2-152103



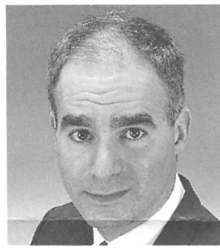
No.131 通巻第163号
1月4月7月10月 年四回発行



活動写真を

世界中に広めたい

ラリー・グリーンバーグ



皆様、あけまして、おめでとうございます。併デジタル・ミームのラリー・グリーンバーグと申します。

私は21歳であった一九八五年に来日しました。幸運にも有名な映画評論家である佐藤忠男先生と出会えた事でマツダ映画社の皆様とも親しくさせて戴き、マツダ映画社がこれまでに取り組んでこられた無声映画フィルムが発掘・復元と弁士・音楽付による上映会活動に心から敬意を表しております。

私が日本の無声映画と出会ってから二十年の歳月が流れましたが、この間、澤登翠さんや若手弁士の方々が出演された数多くの上映



会を拝見し、又、マツダ映画社の松田豊氏との交流を深めていったことで、日本における無声映画の上映が、世界にも類を見ない、非常に高度なエンタテイメント性を有している事を実感しております。そして、いつしか日本の無声映画、そして、弁士の話芸という芸術を私の母国であるアメリカ、そして世界中の人々に知らしめたいという気持ち強く抱くようになりました。

ベルギーのアントワープ、オランダのロッテルダム、アメリカのシカゴなど、これまでに何度となく、海外での弁士公演をプロデュースさせて戴きましたが、その全ての公演でも大きな反響を得ることが出来ました。又、私は併アーバン・コネクションズという翻訳業務を中核に据えた会社も経営しているのですが、そのアーバン・コネクションズからは「活動弁士―無声映画と珠玉の話芸―」および「よみがえる幻の名作」(以上、英語版あり)、「日本無声映画俳優名鑑」という書籍、無声映画のデータ・ベース・ソフトである「日本無声映画大全」(DVD・ROM・日英バイリンガル)を出版しています。

しかし、もともと世界中の人々に日本の無声映画を知って貰いたいとずっと考えておりました。そんな折、近年の著しい技術革新の影響から、これまで主に上映会で利用されていた16ミリフィルムの需要は激減し、

無声映画を恒久的に遺していくためには(フィルム)のデジタル化が避けて通れない課題であること、そして、松田さんもその現状を大変危惧されていることを知りました。

デジタル・ミームの(「ミーム」とは(文化の遺伝子)を意味します。私共が、弁士の語り、和洋合奏の伴奏音楽、多言語の字幕付で、無声映画をDVD化する「トリーキング・サイレント」シリーズの出版を決意したのは正にマツダ映画社所蔵の貴重な作品群とその上映形態を遺伝子として未来へ伝えるデジタル・アーカイブを構築するためなのです。

正直に言って、第二次世界大戦以前の日本は、欧米、そしてアジア諸国にはあまり良い印象を持たれておりません。しかし私は、戦前の日本が素晴らしい芸術を持ち、高度な文化を享有した尊敬に値する民族である事を無声映画との出会いを通じて実感しています。私は是非ともその事を世界中に紹介したいのです。

驚くことに日本人の中にも、誇るべき日本の文化である弁士の話芸、無声映画の水準の高さに気付いていない人がたくさんいます。活動写真を愛好する無声映画鑑賞会の会員の皆様、是非、皆さんの一人一人が宣伝マンとなり、世界中の人々に、そして、これから生れいずる次世代に、活動写真の素晴らしさを伝えていきましょう！

追記：今年2月には、ニューヨークのジャバノン・ソサエティで、世界に冠たるジャバノン・アニメーションの原点である一九二〇、三〇年代の漫画映画を四日間に渡って上映する機会を得ることが出来ました。間違いなく大きな反響が得られると思います。

(併デジタル・ミーム 代表取締役)